

そけいヘルニア専門外来

当院外科外来では、そけいヘルニア（鼠径ヘルニア）の治療をより安全に、短期間で行うための「ヘルニア専門外来」を設置しております。

鼠径ヘルニア（脱腸）

鼠径ヘルニア（脱腸）とは

お腹の中にある内臓が腹膜に包まれた状態で、鼠径部（太ももの付け根あたり）の筋膜の間から皮膚の下に出てくる病気です。出てくる内臓が腸の場合「脱腸」と呼ばれます。

乳幼児の場合はほとんどが先天的なものですが、成人の場合は加齢により身体の組織が弱くなるのが原因です。鼠径ヘルニアの発生に職業が関係していることが指摘されており、重たい物を持つなど腹圧のかかる仕事に従事する人に多く見られます。

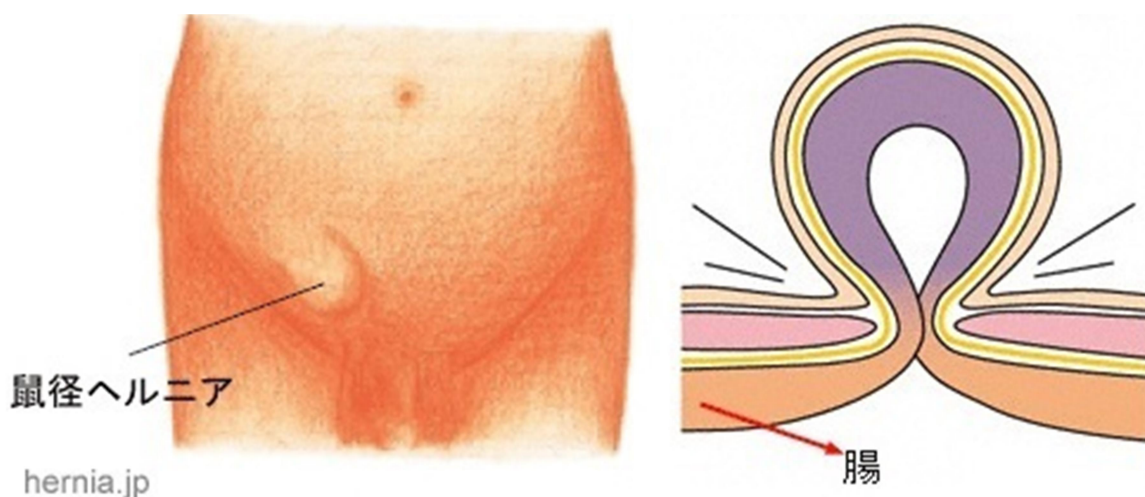
他にも、便秘症、肥満、前立腺肥大、咳をよくする人、妊婦さんも要注意です。

鼠径ヘルニア（脱腸）の症状

立った時や、お腹に力を入れた時に鼠径部が柔らかく膨らみます。横になったり、手で押ししたりすると戻ります。

中には、膨らみが急に硬くなったり、膨れた部分が押さえても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりします。

これをヘルニアのカントン（嵌頓）といい、急いで手術をしなければ、命にかかわることになります。



鼠径ヘルニアの治療

手術が唯一の治療法です。

当院ではメッシュプラグ法と腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を行っております。患者さんの希望や患者さんの身体の状態などから、最も適切な手術法を選択するようにしていますので、手術法の選択に関しては担当医師とご相談ください。

ここ数年で鼠径ヘルニアの手術数は増えており、その中でも腹腔鏡手術を選択される方も増えてきております。

腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術では、従来から行われているお腹を切開する手術（メッシュプラグ法）と異なり、まずお腹に10mmから5mmの小さな穴を3カ所程度あけます。

そのうちの1つの穴から腹腔鏡を入れてお腹の中を映します。その像をテレビモニターで観察してヘルニアの場所を見つけ、別の穴から入れた手術器具を外科医が操作して患部の治療をします。

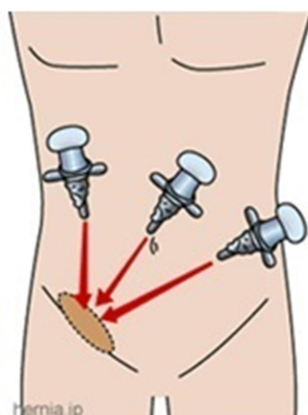
<腹腔鏡下手術の利点>

- 傷あとが小さく痛みが少ない。（従来の手術では5cm程度）
- ヘルニア発生部位が左右の2ヶ所にあっても同時に治療できる。
- お腹の中（腹腔内）を観察しながら手術を行うので、症状が出ていない小さなヘルニアの見落としが少なくない。

<腹腔鏡下手術の欠点>

- 必ず全身麻酔で行う必要がある。
- メッシュプラグ法と比較すると手術時間が長くなる可能性がある。
- メッシュプラグ法と比較すると（頻度は少ないものの）重篤な合併症を生じる可能性がある。
- メッシュプラグ法と比べた印象は、手術後の月単位・年単位の慢性疼痛が少なく感じる。

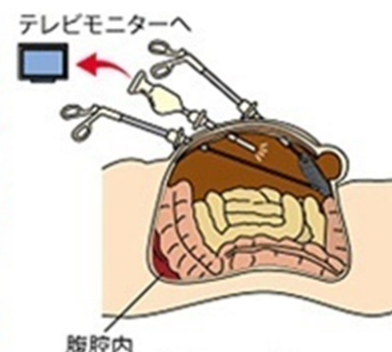
また、腹腔鏡でおなかの中から観察すると、出ている部位がはっきりわかるので、ヘルニアの見落としはほぼありません。



腹腔鏡による手術



メッシュの挿入



腹腔内の様子

鼠径ヘルニアは、痛みがなく日常生活に支障がなければ急ぐ必要はありませんが、自然治癒することはなく、放置すると嵌頓する恐れがあります。鼠径ヘルニアは嵌頓を起こす前に手術を受けることが何より重要ですので、早めの受診をお勧めします。

お気軽にご相談ください。

当科のヘルニア手術の特徴

- これまでの経験を基にして、総合病院の利点を生かし、心臓、肺、脳血管、腹部臓器等に持病がある患者さんにも、安全に手術を受けることができるように、担当医師+外科チームにてサポート医療体制をとっております。
- 麻酔は原則的には、腰椎麻酔か全身麻酔（小児の場合など）です。場合により局所麻酔で行います。
- 手術方法は、腹腔鏡下手術かメッシュで補強するテンションフリー（メッシュプラグ法）手術を原則としています。40歳以下の方の場合には、人工物を使用しない場合もあります。
- 入院日数は、原則的には手術前日に入院、術後3～4日目に退院となります。ご希望により入院日数を短縮することも可能です。
- 15歳以下のお子さんの手術は、翌日に退院をさせていただいています。
- 新規の患者さんも、紹介状の有無に関係なくお受けいたします。
- 手術を受けるべきかお悩みの方の相談も受けております。
- 診断がつき次第入院予約を行い、早い時期にほぼご希望の日程で手術を受けることができます。

診療受付時間

火曜日 午前8時30分から11時30分まで

<お問い合わせ先>

富士見高原病院 外科外来

電話:0266-62-3030（代表）または0266-61-0489（予約センター）